

## 岡田味噌の復活! ～新たな味噌加工施設に響く お母さん方の明るい声～



岡田生産組合加工班の方々

岡田生産組合（仙台市宮城野区岡田地区）は東日本大震災の津波被害により、味噌加工施設と仕込み終わった味噌11トン、原料の大豆・米、販売用のパック資材などを失いました。

しかし、同組合はいち早く加工施設の再建や、米と大豆を生産するための土地の確保に取り組み、あの日から約1年となる平成24年3月27日に味噌の仕込みを再開することができました。加工施設で使うタオル1枚から購入し直さなければならないという、マイナスからのスタートでしたが、それでも、岡田味噌の復活を待っているお客様のため、そして、地域に元気を取り戻すため、5月中旬までの1ヶ月半の間、皆が交代で仕込みを行いました。仕込み作業は秋以降にも行い、震災前の仕込み量と同等の年間10トンの味噌を生産する予定です。

味噌づくりは全てにおいて「味噌の顔を見ながら動かすことが重要」であり、夏から秋にかけては、味噌の機嫌を見ながらの手入れが続きます。加工班長の鈴木里子さんは「首を長くして待っていてくれるお客様に早く味噌をお届けしたいのですが、熟成には時間がかかるため、冬までお待ちいただかないといけないのが歯痒くて・・・」と話してくれました。

お母さん方が手塩にかけた復興を願う「岡田味噌」は、今年の11月頃から販売が再開される予定です。

## アニメ『かなぎ』の聖地“七ヶ浜”で深まる絆! 七ヶ浜町観光協会と『神薙町内会』が 初コラボイベントを開催します!

七ヶ浜町には、平成20年に放送されたアニメ『かなぎ』の神社のモデルになった鼻節神



七ヶ浜国際村

社があり、多くのファンが“聖地巡礼”に訪れています。また、町の施設である七ヶ浜国際村は白を基調とした独創的な建物を背景に写真を撮影できることからコスプレスポットとして人気を集め、月に1度『コスプレイベント』が開催されています。

『かなぎ』のファンサークル『神薙（かなぎ）町内会』の代表である東海林泰士さんは、津波により壊滅的な被害を受けた町の状況に心を痛み、週末ごとに避難所に必要な物資を届けました。また、仲間を募り、高台にあったため津波の被害は免れたものの灯籠等が倒壊した鼻節神社の修繕を行いました。現在は、町内外で開催されるイベントで『かなぎ』グッズの販売を行い、利益を支援金として町に寄付しています。



七ヶ浜国際村の  
「かなぎ」展示コーナー

この『神薙町内会』と七ヶ浜町観光協会がコラボしたイベント『サブカルフェスタ in 七ヶ浜～んめもの喰ってがんばるっ

ちゃんや!～』が6月17日（日）に七ヶ浜国際村で初開催されます。このイベントでしか味わえない『豆喰え、豆!弁当』、『高級山菜弁当』、『海鮮ちらし弁当』が販売されるほか、コスプレダンスやカラオケ、痛車（※1）の展示、アニメ『かなぎ』の監督である山本寛氏のトークショーや短編アニメ『blossom』の上映会が行われます。また、アニメ『らき☆すた』の“聖

地” 埼玉県鷺宮町の商工会が参加し、『らき☆すた』グッズや“萌酒（※2）”を販売します。

なお、現在、『神薙町内会』が主体となり、七ヶ浜町花淵浜沖の海水を使った藻塩商品の開発を進めているとのこと。『かんなぎ』ラベルの新たな七ヶ浜名物が誕生する日も近そうです。

【問】七ヶ浜町観光協会（町産業課内）

022-357-7443

※1 アニメのキャラクターやロゴなどのステッカーを貼ったり、車体に描いたりしている車を指す俗語

※2 ラベルにアニメなどのキャラクターやロゴを描いた酒

## 乾ノリ共同加工施設建設に向け、 作業を急ピッチで進めています！



塩竈市浦戸桂浜の建設予定地

昨年の大震災により、多くのノリ養殖業者が海面の養殖施設と同時に乾ノリ共同加工施設等の陸上施設を失いました。その結果、平成23年漁期の宮城県内のノリ出荷枚数は1億3,700万枚と震災前のお荷枚数の3分の1に留まりました。

現在、昨年度生産できなかった養殖業者が施設の復旧を進めており、5月には



巨理町荒浜での地鎮祭の様子

巨理町荒浜、塩竈市浦戸の桂島、東松島市浜市、七ヶ浜町花淵浜で乾ノリ共同加工施設の地鎮祭が執り行なわれ、既に建設に着手しています。また、七ヶ浜町の花淵浜以外の各浜や東松島市室浜・大曲の各建設予定地でも6月中には工事が始まる予定であり、今秋には管内で新たに計23棟（73経営体）の乾ノリ共同加工施設が完成する予定です。このように、今年9月頃から始まるノリの採苗と、それに続く養殖・加工に向けて急ピッチで作業が進められています。

また、これらの施設整備は、平成23年度「水産業共同利用施設復旧整備事業」の繰越事業を活用しており、年内の施設稼働によりノリ養殖が本格的に復旧し、震災前の水準を取り戻すことが期待されます。

## 除塩が終了した水田で 田植えが行われました！



除塩が済んで2年ぶりの田植えができた空港近くのほ場

県巨理農業改良普及センター（以下普及センター）管内の2市2町（名取市、岩沼市、巨理町、山元町）では、東日本大震災に伴う津波の被害により、去年は水田面積の約6割以上が作付けできない状況でした。しかし、水田に真水を溜めたり、表面をかき回すことで土の中の塩分を洗い流すなど、作物が生育できる環境を取り戻すための除塩作業が懸命に行われました。その結果、平成24年の春までに、管内の震災の影響を受けて作付けができなかった水田4,055haのうち、約3,700haで作付けが可能となりました。

管内では5月2日頃から田植えが始まりました。去年は震災の影響で田植えの時期は大幅に遅れましたが、今年度は平年に比べ3日程度の遅れで作業が進みました。生産者には震災以後初めて田植えを行う方もおり、待望の春作業となりましたが、去年は田植えの時期が遅かったものの作柄が良かったことから、生産者の晩期栽培（※1）への意識が浸透したようです。

また、普及センターでは通常の生育調査ほ（※2）の他に、除塩が終了したほ場についても生育調査ほを複数設置しており、水稻の生育経過と土壌中の塩分濃度等の計測を通して、除塩後の水田で米づくりに取り組む生産者の支援を続けていきます。

※1 田植え作業を5月中旬以降に遅らせ、出穂期を遅らせることで、冷害のリスク等を回避する目的で行われる

※2 生育調査を行うための田畑

お問い合わせ先)宮城県仙台地方振興事務所  
地方振興部(担当:鈴木、鶴飼)  
(HP) <http://www.pref.miyagi.jp/sdsgsin/>  
(E-Mail) [sdsinbk2@pref.miyagi.jp](mailto:sdsinbk2@pref.miyagi.jp)  
(TEL) 022-275-9140